

# 音風景のサンプリング手法が幼児期の音楽あそびに与える影響 —カリキュラム開発に向けた予備調査— (中間報告)

つくば国際短期大学 仲 条 幸 一

## The effect that the method of sampling of soundscape has on music play of infancy - pre-research for the development of curriculum -

Tsukuba International Junior College, NAKAJO, Koichi.

### 要 約

サウンドエデュケーションに代表されるように、自然音や環境音、生活の中の音の鳴る日用品などに耳を澄ませ、その音を音楽表現のための新しい音源や音響とする実践が多数行われている。本研究は、幼児期におけるサウンドエデュケーションの活動に ICT を活用し、音風景をサンプリングする新たな手法を用いる音楽あそびのカリキュラムを立案し実践する。本実践を通じて子どもの音楽あそびの質的な変容や、音を聴くことや音への興味関心について調査を行い、ICT を用いた環境構成を選択する際の知見を提供することを目的とする。なお、本中間報告では、カリキュラム開発に向けた予備調査の結果について報告する。

**【キー・ワード】** ICT, サンプリング, 音楽あそび, 保育, サウンドスケープ

### Abstract

As having represented in sound education so far, we listen carefully the sound of nature, environmental sound and daily sound we usually make, we use these sounds as new sounds for musical expressions in many ways.

In the research by using ICT as activities for sound education in infancy, I put into practice curriculum of music play using the methods for sampling of soundscape. Through these activities, we make surveys of change of children`s musical play, listening to sounds and interest in sounds, and I present knowledge of choosing environmental structure using ICT.

In this interim report, I represent the result of pre-research for development of curriculum.

**【Key words】** ICT, sampling, sound education, nursery, soundscape

## 問題と目的

主に「音風景」と訳される「サウンドスケープ」は、カナダの作曲家であるマリー・シェーファー (Raymond Murray Schafer) によって 1960 年中頃に生み出された言葉であり、音の空間や環境、その場で聴いている人との関係性や状況など、音と人と環境とを結ぶ様々な示唆や可能性に富んだ概念・理念である。この概念は音楽教育の分野にも大きな影響を与え、特に身の周りの音を能動的に聴く活動である「サウンドエデュケーション」と創造的音楽学習 (Creative Music Making) は、音を聴くことと音楽をつくり構成する学びに広く示唆を与えている。

20 世紀に入った現代音楽では、それまでの西洋音楽で着目されてこなかった様々な音楽表現上の可能性が模索されるようになった。その模索のひとつに、楽音と非楽音の境界を取り除き、自然音や環境音、楽器以外の生活の中にある音具などが音楽表現のための新しい音源や音響として見なすようになったことが挙げられる。松平(1995)は「新しい音源からの音響」として、家具や紙、貝殻などの他に、トランプのカードを切る音や水を飲み込む音などを音響として用いて音楽をつくるプロセスが認識されるようになったことを指摘している。例えばイタリアの作曲家ルイジ・ルッソロ (Luigi Russolo, 1913) の音楽は世間から騒音と称される工場の音や地下鉄の音に着目し、騒音を発生させるイントナルモリを用いて音楽作品を創作し、騒音などの非楽音も新しい音源からの音響であり、音楽作品の素材となることを示している。その他、フランスの作曲家エリック・サティ (Érik Satie, 1920) が「反復」の手法を用いて音を単なる音響体として日常に溶け込ませようとした「家具の音楽」や、スティーブ・ライヒ (Steve Reich, 1965) による単純な音型を繰り返す響きの中に微細な変化を聴くミニマルミュージックの技法、ブライアン・イーノ (Brian Eno, 1978) が音響を日常に溶け合わせてオブジェ的に提示した<アンビエント・シリーズ>などが、様々な音響や風景の中にある新たな音素材を用いた現代音楽の流れの例として挙げられる。身の周りの音風景や自然音を録音し、それらを音素材として音楽制作に用いるサンプリングは 1950 年頃に「ミュージック・コンクレート」を提唱したフランスの作曲家ピエール・シェフェール (Pierre Schaeffer, 1952) が代表的に用いた手法である。自然の音や人間の声などを録音し、その録音したものを電氣的に加工、編集、操作する技法を用いて音楽作品を創作し、この作品においては楽音と騒音に区別はなく、等しく音の素材として用いられていた。身の周りの音風景をサンプリングし、音楽制作上の素材として用いる動きはクラシックに限らずロックや EDM などの多様なポピュラー音楽に援用されている。木下ら(2018)の実践等により音風景自体を主体的に操作可能な対象として加工することに教育的意義が見出される一方、幼児期における音楽あそび・音楽教育における ICT の利活用は実践例が少なく ICT が未整備の園も多く存在している。吉永(2012)は、幼児の音環境を構成する様々な音素材の中から、モノの音と人の声が幼児にとって生活やあそびのなかで触れ合う最も身近な素材であると示している。これら身近な音に耳を澄ませる活動に ICT の利活用については様々な検討の余地を残している。そこで本研究では幼児期の音楽あそびに ICT を活用し、音風景をサンプリングする手法を用いた音楽あそびのカリキュラムを提案し実践を行う。実践はビデオで記録・分析と保育者に対するインタビュー調査を行い、幼少期の子どもの表現の可能性を広げるために ICT を用いた環境構成を選択する際の知見を提供することを目

的とする。

本中間報告では、カリキュラム開発に向けた予備調査について報告する。また本研究は筆者が所属する研究倫理委員会の承認を得ている。

## 方 法

**対象**：茨城県内の保育所・幼稚園・認定こども園

**調査内容**：保育における ICT について（園での ICT 活用状況、ICT を活用した保育等）

**調査時期と方法**：2019 年 11 月、上記調査内容を記入する質問紙調査

**回収状況**：茨城県内の保育所・幼稚園・認定こども園のいずれかに所属し、現在子どもを養護・教育している立場の 126 園の保育者から回答を得た。

## 結 果

「パソコンでの保育業務（指導案や日案・月案の作成）」については全体の約 64.2%が活用していると回答された一方、スマートフォンやタブレットを用いて子どもを写真や動画に記録していると回答した園は全体の約 27.7%であった。また、園専用のスマートフォンやタブレットを所有しているか質問した項目では、全体の約 26.9%が所有しているとの回答を得られた。

「子どもが ICT を使ってあそぶことや学ぶこと」について「賛成・どちらともいえない・反対」で回答する項目では、「賛成」は 32 名(約 25.3%)、「どちらともいえない」は 86 名(約 68.2%)、「反対」は 6 名(4.7%)で、無記名が 2 名の結果であった。しかし子どもが主体的に操作する ICT 機器を、園が所有しているか質問したところ、「ある」と回答した園は 126 園中のわずか 2 園のみ(約 1.5%)であった。「保育者の専門性と ICT の活用」について自由記述で質問したところ、以下のような記述がみられた。

- ・生きる力、考える力を育み、人との関わりができるようになることが保育者として大切。
- ・共感し合える心を育むことが大切。ICT は 1 人 1 人の個性や性格にあった対応が出来るのか
- ・「こんな使い方があるんだ」と導いてあげながら、楽しさを一緒に知る。まずはやってみようと思わせられるように寄り添うこと。
- ・使い始めてある程度使いこなすことができるととても便利なもの。しかし、使いすぎによる視力低下や間違った使い方によるトラブルの危険性やリスクを知っていること。
- ・正確な情報や記録はできても、気持ち（感情）をとっさにわかることができることが保育士の専門性。温かいぬくもりを伝えるのはやはり人間だと思う。

・情緒的なことを伝えていくことや、子どもに愛情を注いでいくことは人（保育者）でないと出来ないと思う。

また、全ての自由記述を KH Coder によって分析したところ、次のような共起ネットワークが得られた。

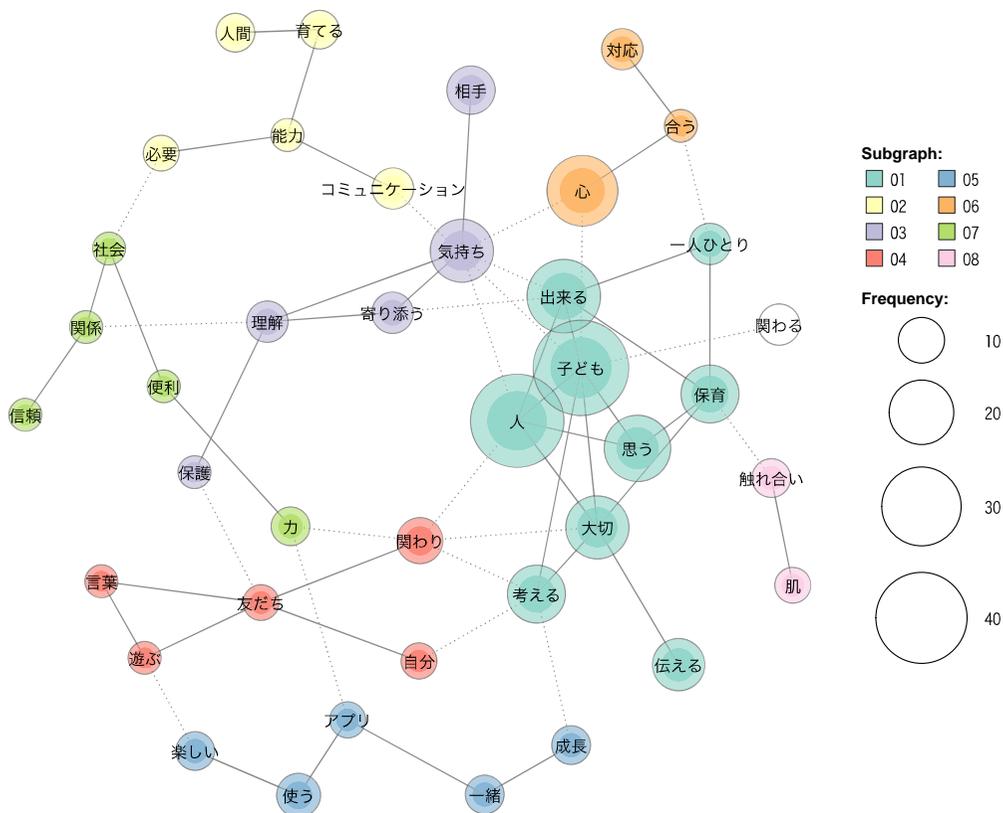


図 1 保育者の専門性と ICT の活用に関する自由記述から得られた共起ネットワーク

## 今後の展開

予備調査の結果を参考に、現在幼児期の音楽あそびにサンプリングの手法を用いたカリキュラムを立案中である。楽器の音や自然の音、身の周りの音を録音し、それらの音素材として音楽制作に用いる音楽あそびを提案し、ICT を活用しながら身の周りの音を収集する活動を通して、子どもの行動や収集結果を分析し、その影響を把握する。身の周りの音を収集する活動と音楽を構成する活動を通して、幼児の行動や収集結果を分析し、音・音楽を聴く力や音楽をつくる力などへの影響を把握する。

## 引用文献

- R・マリー・シェーファー(1992)『サウンド・エデュケーション』春秋社, 3頁.
- ジョン・ペインター,ピーター・アストン(1982)『音楽の語るもの—原点からの創造的音楽学習』音楽之友社, 7頁.
- 松平頼暁 (1995)『現代音楽のパサージュ・20.5世紀の音楽』青土社出版, 169-179頁。
- 吉永早苗 (2012)『幼児期における音感受教育—モノの音・人の声に対する感受の状況と指導法の検討—』白梅学園大学大学院子ども学研究科博士課程 2012 年度学位論文, 231頁。
- 木下和彦, 金崎惣一 (2018)『サンプリングの手法を用いた創作活動の教育的意義—音素材の加工, 創作用ソフトの活用の観点から—』日本音楽教育学会『音楽教育学』48巻1号, 11頁。

